

# 演類通

第百三十九號

値下げ斷行  
一部十錢

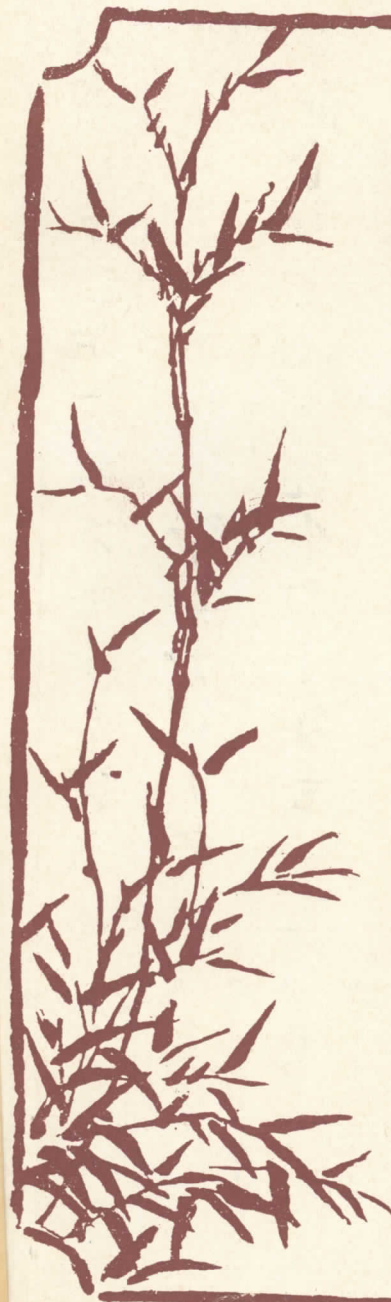
舞臺と映畫の娛樂と研究雜誌

鰻蒲燒

清料理

金好々

# 竹葉亭



本亭 瓦町 (大手橋西詰)

電話北濱 (七〇六番  
二八三五番)

南店 湊町驛前 (阪急ビル)

電話櫻川 二三五三番

北店 堂島 (渡邊橋北詰)

電話北 (六五五番  
四六二九番)

梅田 阪急百貨店 (七階食堂)

日本綿業會館 (地下食堂)

戎橋 三笠屋 (二階食堂)

日本に十二年ウ井スキーが出来

た。しかもそれは、サントヴィだ。

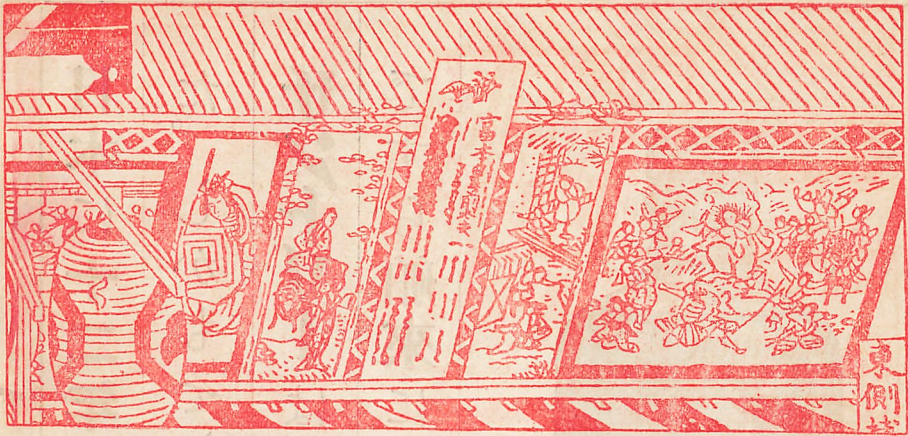
サントヴィは、従來の十年もの

ですら舶來に優つてゐた！



ウキスキー用原料として最良  
と云はれるゴールデンメロン  
種の大麥を用ひ本格醸法に依  
つて醸造し、更にポットスチ  
ルといふ入念を極めた蒸溜法  
に依つて蒸溜し、後、これを  
實に十二年の長きに亘つて貯  
藏熟成せしめたもので、その  
品質香味まことに醇乎として  
酔！

舶來の同種品を遙かに凌ぐも  
のであります。輸入防遏の特  
に急務とされる今日、せつに  
御支持を仰いで止みません！



★道頓堀 (第百三十九輯) 目次★

ドウトンボリ 特輯 グラフ

☆歌舞伎座・五郎劇……………☆中 座・松竹家庭劇……………

☆角 座・關西新派劇……………

☆南 座・大江美知子……………☆松竹劇場・大歌舞伎……………

★春の映畫・松竹と新興・ピツク8

観客の問題……………中井駿 二(一〇)

關西劇壇と上演脚本の問題……………新橋柳一郎(一四)

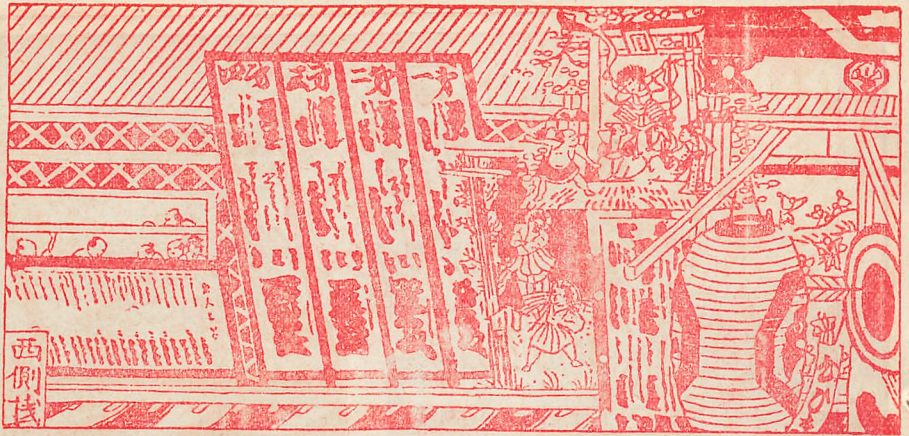
勸進帳のあとさき……………入江來布(一七)

キノドラマ印象記……………菱田正男(一六)

病中吟……………中村吉右衛門(二三)

芝居十句……………日比煤 蓑(二六)

柳役者と酒……………森ほのほ(二九)



りほんとうど  
んよしくせ

- 明鳥夢泡雪……………酒井七馬(三七)
- キゲキ放談……………大槻たもつ(二六)
- (一)春のをどり……………妹背平三(三〇)
- (二)スター應募……………天龍寺敏(三三)
- スタチオ漫訪記藝術の幅……………富田英三(三三)

俳優の横顔

中村梅玉……………高谷伸(三〇)

題な夜話……………三田村鳶魚(三三)

東京夜話……………守安新二郎(三五)

●家庭劇を守る人々……………坂上啓勝(二八)

●關西・三月の劇評……………(二四)

三問・三答……………(二六)

佐分利信……………松本幸四郎

山田五十鈴……………辰巳柳太郎

高峰三枝子……………水谷八重子……………古川登美

柏ハルエ……………

★敏夫さんと南の芝居(讀者街)……………(二五)

★ドウトンポリ・ニュース……………(二三)

★編輯後記……………源多生(四〇)

白  
雪

彩

酒

摂津伊丹灘 小西酒造株式会社



# ☆ 劇 郎 五 の 座 伎 舞 歌 ☆

とうやすまりあで格合不かうど、ぬれやへ校學女らかいし貧がる來出くよは供子  
父の郎五るけに **「 獄地 驗試 」** は眞寫)、さなけさな、さなつせの心の親の祈  
りよ台舞の月四 (他のそ常お妻の磯大、吉廣親





☆ 中座・松竹家庭劇

春は花から笑ひから、笑ひのリズムにのつた人氣劇團〃 松竹家庭劇〃の舞臺面二の替り

(上)〃 温室村〃のワンカット。十舌の母親に息子は天外、温室咲ならぬ人情の花が咲く

(中)〃 兄弟姉妹〃ラデオで放送されました名舞臺、石川の傘を洗ふ兄が十舌

(下)東、淡海、石河、小松が出てゐます

砂糖加減〃の舞臺です。事態はまさに御想像の通り







◇五郎劇の呼物ノ献金◇ 舞台は警察の司法室

全部新作で大熱演の五郎初日は忽ち大満堂!!

曾我 五郎 劇

(幕開時五夕毎)

1 生	2 挿話變	3 大阪府新開社書記事劇化	4 試	5 花街
1 本二場	1 献	大坂府推薦脚本	4 地獄	5 一
1 場	1 場	1 場	2 場	2 場
1 場	1 場	1 場	1 場	1 場

◇一幕券は毎開幕前に發賣◇

日 子 速 水 太 録 郷 鼓 影  
 一 二 三 帆  
 幕開時二十  
 三十八快笑の内

本興行観劇料  
 櫻 五十錢  
 菊 八十錢  
 一等 一百五十錢  
 二等 一百八十錢  
 一等席は五日前より發賣、二等席より櫻席までは前日より發賣致します。  
 マチネー観劇料  
 櫻 三十錢  
 菊 五十錢  
 一等 二十錢  
 二等 十錢  
 外に各等入場料一割

八……六二八二(戎)話電用専体團賣前

座伎舞歌飯



趣味の喜び—餘裕の力

# 松坂俱樂部

## 新會員募集

各流各派第一流の權威者を仰ぐ  
趣味と教養の道場……………

箏曲、長唄、常磐津、清元、小唄、舞踊、謡曲、  
能樂、華道、ピアノ、聲樂、料理、洋裁、書道、  
日本畫、茶道、俳句、川柳 等夫々開講

手ほどきから奥義まで

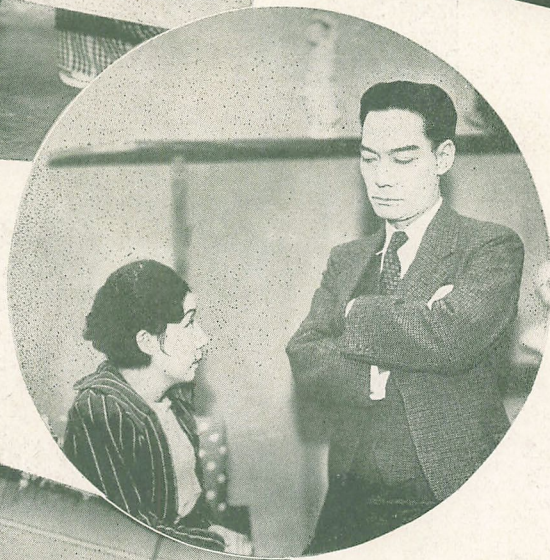
氣軽く、楽しく、お上達



### 松坂屋

橋本日 阪大

室究研樂遊 良田與 眞寫



☆角座關西新派劇

五の替り舞臺面です。

(上)「半處女」の中田の紫野、梅

野井のおいと、

(左)「同」おいとに山田の春太

郎 (中)「同」都築の大前田壯吉、瀧

の三鈴 (下)「若殿行狀記」の舞臺

面(但し角座は八日より引續き六の替りが出る)

# ☆ 神戸松竹劇場

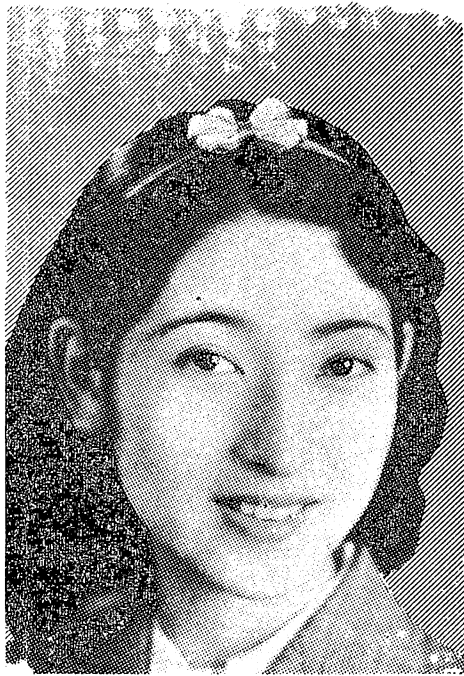
關西勢の花形が、舞臺一つばいに腕をふるつてゐる。  
初日以来活況裡にあつて、いよいよ芝居は好評だ。

(上) 中村魁車のお初「鏡山舊錦繪」

(下右) 中村芳子の永樂屋娘おくみ「双面水照月」

(下左) 長谷川伸作「屋根の聲」で快演、やんやの好評を浴びてゐる、魁車の稲葉の新藏





お顔が見違へる程美しくなります

湯	は	洗
も	ぬ	顔
水	新	料
も	し	!
使	い	

洗顔・美容・化粧下の

**三重作用**

(1) 洗顔クリームの作用

湯も水も使はず、寸すり込んで拭きとるだけで、従来の洗顔料では到底落ちない、毛穴の奥深くにある垢やヨコレまでスッキリと綺麗に落します。

(2) 栄養クリームの作用

獨特の美容成分を、皮膚の深部に最も効果的に與へ、お肌がシン底から垢ヌケしていつもお風呂から上りたての様な若々しいお肌になります。

(3) 化粧下クリームの作用

白色クリンシンで洗顔しますとお化粧下なしに、スグ粉白粉をつけても、また水白粉をつけても、どのお化粧下を使つたよりも一層美しいツヤのあるお化粧が出来ます。

△歐米婦人の洗顔は

皆クリンシンです

明色クリンシンクリーム

# 金鶏印 罐詰 二大製品

- 1. 純良精選の牛肉  
で御座います
- 1. 不意の御來客に
- 1. 御酒ビールの御友に
- 1. キャンピングに
- 1. ハイキングに
- 1. 各地百貨店  
著名食料品店  
に販賣致して居ります
- 1. キンケイ印を御指定下さ  
い



洋酒・食料品・罐詰問屋  
 大阪市東區豊後町三番地  
 株式會社 横山商店

旅行の御相談と

全国遊覧地代表旅館の

御案内は！

観劇券と

観劇會の御用は！

大阪道頓堀角座前

氣分の案内所

増利三

電話南貳六四番

スゼロプ  
作製板看術美

るゆらあ  
告廣傳宣

社事商告廣

造勝中田

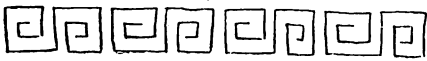
前日千阪大

番〇九七三戎電  
ルクナミ

快 明  
適 朗



前座天昇 堀頻道  
店茶喫下廿八



✳  
和 田 榮

ネ ル ・ セ ル  
純 純 綿 毛 品 品 の  
最後のお求め時!

心 齋 橋 北 詰  
電話船場 (83) 一 九 七 一 〇 番

井 上 映 画 堂

プロマイドなら何でも御座います  
日活映畫鑑賞會  
轟夕起子後援會 申込所

井 上 邦 雄  
大阪市南區西賑町十二





☆ 南座・大江美智子

「實はこんなにやさしいです。」と舞扇をとつてト  
ン。だが寄らは斬られますッ。

(上) は南座で舞ふ美智子 (下) は同じく「お鯉

やくざ」の颯爽たる大江、ターキーとは又變  
つた味で、女性ファンを唸らせてゐます。



★ 春 映 画 の



(上) 坂東好太郎、伏見直江の『新月隅田川』演出は大曾根辰夫(中左) 大船のビックリ高杉、桑野、高峰が顔を合せる『螢の光』四月乙女の感傷にささげる名曲篇(中右) 戦時體制下の銃後に捧げる『わが心の誓ひ』桑野通子がまた新機軸を演ずので早くも評判(下) 名作コンビの一つ、好太郎、北見の『春風伊勢物語』演出は『流轉』の二川文太郎監督

松	竹
京	大
都	船
品	作

「トーチカ娘行状記」

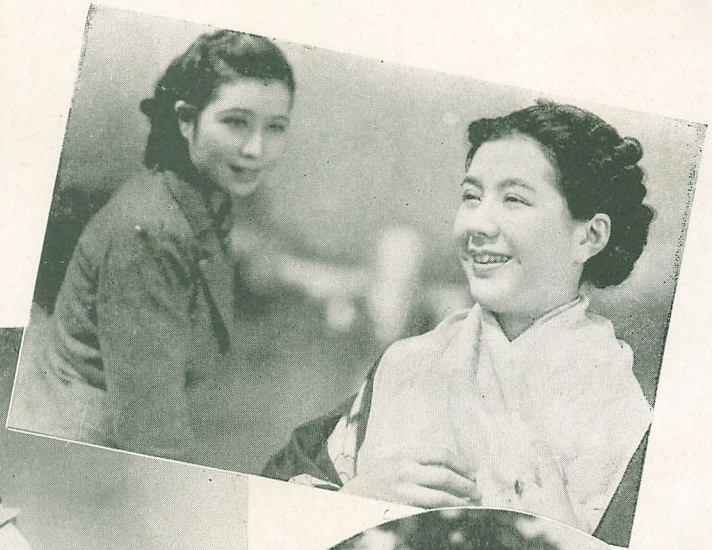
『鳩の様に可愛い顔』と『マリの様に弾力性のある演技で近頃メキメキと進出して来た新興東京の新スター美鳩まりの心臓娘シリーズ第一篇、女学生、新聞賣子少年、床屋の女弟子、美容院のボーイ、令嬢と七變化を見せてアツと驚ろかせようと言ふ（スチールは惚々とする美鳩の男装振りと應援出演の古川登美）

「紀國屋文左衛門」(左)

『吉田御殿』『靜御前』の名匠野淵昶監督が待望の市川右太衛門と組んでものする新興独自の百萬圓映畫（スチールは右太衛門の紀文）



新興キマネ



「肥後の駒下駄」

『柳生二蓋笠』に次ぐ老練仁科紀彦の新興時代劇、主演はお馴染み染大友柳太郎、市川男女之助、森静子の三大スター顔合せ（スチールは大友と森）



# ／臺舞花の念記場開「映松」

アフはさし美の「寺成道娘」演賞の代絹中田る飾をロフ場開の場劇畫映竹松の町役  
にリプツタ嬌愛おも僧小彈爆るす演出に時同、がるあで分充にるせさ酔陶く全をン  
だ演熱大なの的彈爆よいよいてび浴を采喝の客觀たれ溢に場満





お肌  
と  
美  
健康を！

# ムレクトール

るゐてつなに説定の世どクトールばへ云どムリック  
ムレクトールるゐてれさ用信對絶もにまさ方誰程

。せまいさな用使御も女貴、を

らかンシ程るへ違見は肌お、でれ入手おのな夕な朝

。すまり參てけ拔垢

の康健刺潑に常てれさ掃一に事見も物出吹やビキニ

。すまれさ束約が肌若



店商平賛尾平 京東 舗本料粧化トール



治病と娯樂・芝居と料理

温泉通り

# 長生温泉

大阪四喜島

お家旅連れで氣樂に遊べる

御宴會は せひ長生温泉とおきめ下さい  
感のよいは和洋の室の設備あり



市電四貫島大通三丁目下車北へ入ル半丁  
電話土佐堀(44)一三九番

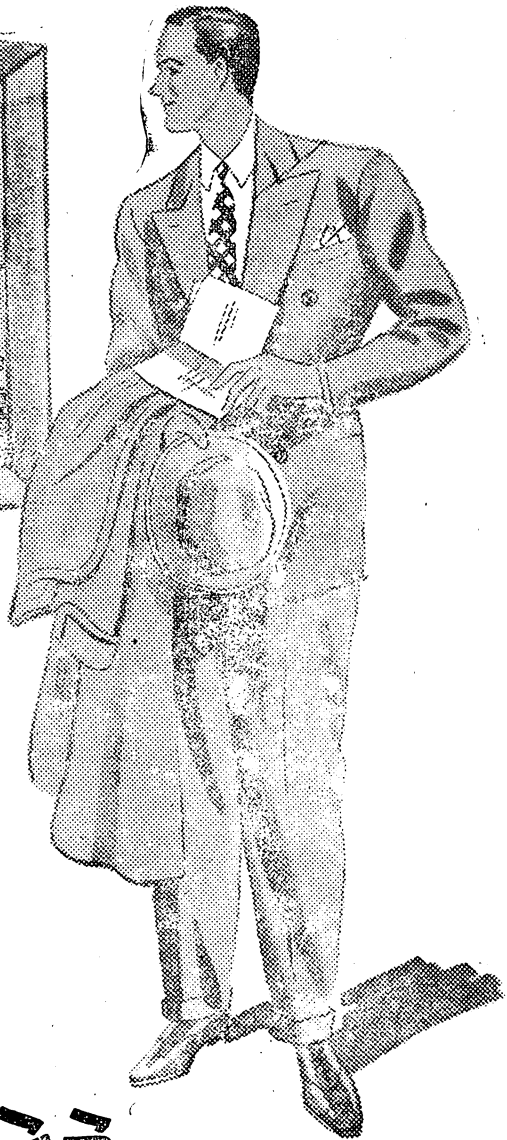
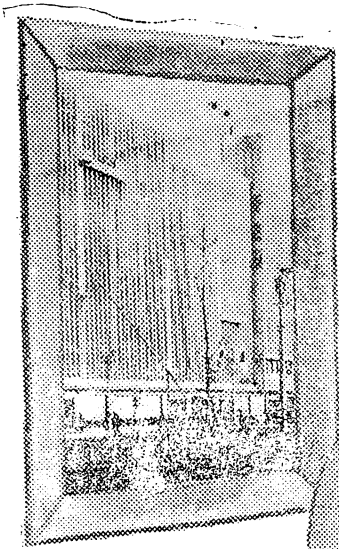
浪花風流  
茶料理  
吉兆

島久内友み所 電南二六千二番十二

三土廣業社

宣傳廣告一般

道頓堀松竹座地下室  
電話南七九四七



瀟洒新新……

春の紳士用品は  
そごうへ……



そごう

大阪心齋橋



第十三号・百三十九号



ドウトンボリ



# 観客の問題

## 中井駿二

★

誰しもが知るやうに、演劇は観客を缺いては成立することができない。観客は舞臺の要素としての戯曲家、俳優、演出家、舞臺装置家等と共に演劇を構成する重要な要素の一つである。観客を前提とせず如何なる演劇をも考へることとは不可能であり、見物のない演劇は、それが如何に悲壯な舞臺を現出しようとも、むしろ滑稽な獨り芝居でしかないであらう。

演劇の根本的な形態に尋ねて見ても、演劇は観客と共に、といふよりも舞臺と観客とは一如のものとして發生し來つたことが立證される。例へばギリシャ劇におけるトラゴデーア及び

コモデーアはディオニソス神事のプロセツションを原初形態とするが、そこでは観るものと観られるものとは不可分離的な一體をなすものであり、我國往古の演劇の發生事情も亦これと變るものではない。その後出演者と観客とは演劇の二つの重要な要素として互に相制約しつゝ變遷し來つたのであつた。

演劇の本質は出演者と観客とが渾然として一つのものに融合するところにその最も根本的な効果をもつものである。俳優は観客をして恰も自らが劇中の人物の一人でもあるかのやうに誘ふところにその藝術的效果の重點を置くものであり、観客は自らも亦舞臺の事件に參入し、様々な感情の経緯の中に自らも織り込まれるかの様に考へるところに快感を見出すのである。舞臺装置、配光、音楽、擬音等も効果のこのやうな作用を圓滑ならしめるための一つの手段なのである。

それゆゑに劇作家は先ず観客を前提として作劇し、演出家も亦観客に對する戯曲の解釋者として立ち、俳優は観客に直接接觸し舞臺的時代と雰囲気とへ導き入れる要素として更にまたその舞臺時代と雰囲気とに參入した観客側よりすれば、恰も自己の中の一人がある劇的境遇におかれ、事件に遭會するかの様に感じ、舞臺装置家、照明係、効果係は観客をして場所雰囲気

もつて包んでしまふことを意圖して作用するのである。このやうにして演じるものと一つのものとして合一してしまふことが演劇の根本的な本願なのである。

それがために古來劇場はかゝる効果を意圖して設計されたのであつた。演劇の原初形態にあつては、観客は出演者をとりまくことによつて合一の世界を實現した。それが次第に規模を大きくすると共に、ギリシャ、ローマにおいて見られたかのやうな、圓形劇場となつて現れ、その後、演劇の内容が漸次複雑化し精細化するにつれて、同一方向より見る形態がとられると共に、收容人員を増加する爲、多く馬蹄形の観客席が設けられ同時に立體的なものとなり、十七世紀に入つてフアルネーゼ劇場の出現と共に舞臺はプロセニウム・アーチの後方に退き、観客席は幕によつて舞臺と截然と區別されるに至つたのであつた。

この幻想舞臺と稱せられる様式はその後近代自然主義の時代に入るに及んで、發達の頂點に達し、かの「第四の壁」の理論によつてうかがはれるやうに、舞臺は人生のありのまゝの一斷片を現出するものであり観客はいはば一つの部屋の第四の壁をとりはずしてそこから覗き見てゐるのであるといふ意圖によつて演出されたのであるが、しかし乍ら、この場合においても演

劇の本質的な効果である舞臺と観客との一致といふ作用は決して失はれてはみなかつたのである。なぜなら、若しこの作用を缺く場合には観客と舞臺との精神的な交渉は失はれて、観客は演ぜられてゐるものに對して何等の共感をも同情をも抱くことは不可能であり、観劇の興味は消滅してしまふであらうからである。

また逆に演じる者に對する観客の共感と同情とは舞臺の上に微妙な反映となつて働き返して俳優の精神に重要な影響を與へるのである。十九世紀における最大の悲劇俳優の一人トマ・サルウイイは自己の演技心理について語つて「私は脚光の耀きを浴びなければ私の模倣の生活に生きることは出来ない。なぜなら、私に働き返して、私の方で観客を私に共感せしめ私と共に感動することを許してくれるのは、観客の共感と感情とだけだからである」といつてゐるのもそのことを指す意味に外ならない。

俳優はつねに観客の視線、勿論精神的な要素の含められた視線によつて練磨されて行くのであり、観客は俳優との共感交流によつて自己の鑑賞力を増大して行くのである。演劇はこの兩者の相互的な琢磨によつて發達し來つたといふことができるであらう。

ところが現在の俳優は如何なる観客を觀客と

することによつて自己の技藝を磨きつゝあるであらうか。又現在の観客は如何なる俳優に對して共感と感動とを投げ掛けてゐるであらうか。

★

たとへ舞臺の上に極めて巧緻な、極度に洗練された技藝を展開すると、それを充分に玩味し得るだけの鑑賞力を備へない観客に對する場合にはその俳優は不幸であるといはねばならぬ前述の舞臺と観客との交流の心理よりすればそのやうな場合、観客の精神的な反映は舞臺に感ぜられることなく、従つて俳優は自己の技藝に對應すべき無形の抵抗を感じし難きが故に屢々緊張度を低下せしめる結果を招き勝である。現在の最も優秀な俳優の一人菊五郎が時として舞臺を投げると非難されるのも、また彼が観客に對して最も要求の多き俳優であると稱せられるのも、そのやうな共感と感動とに對する極めて鋭敏な感受性を享つた故であらうと考へられる。但しその故によつて観客を無視することは自己の生命である技藝を自ら冒瀆し傷けるものであることは如何なる俳優と雖も戒心せねばならぬ他方観客の側よりすれば自己の鑑賞眼に訴へるに足りない程の拙劣な舞臺に遭會するときは、積極的に舞臺の空圍氣へ參入せんとする共感喚起されることなく、むしろ退場すること

こそ願はしいであらう。かゝる場合なほこの観客が坐席に縛りつけられる理由は、今に自分の共感と感動とが喚起されはしないかと待ち設けるところの、鑑賞者としての純情か、或は支拂つた入場料に對する愛惜の念以外にはないであらう。

現在劇場に參集する観客は大別して、歌舞伎劇の観客、新派劇の観客、前進座新國劇井上水谷等のいはゞ中間的演劇の観客、新劇の観客、大衆演劇、例へば五郎、ロッパ、エノケンその他新喜劇小劇場の観客、レヴキウの観客、映畫（これは洋畫と日本畫とに二分され日本畫は更に現代ものと時代ものとに分たれる）の観客とに分類することができるのであらう。

この中観客として最も訓練されることを要するのは新劇と歌舞伎劇とである。新劇は演ぜられる内容が高度の思想性と藝術性とをもつことを本性とするが故に。観客も亦それに相應する教養と精神とを持たねばならぬ。嘗ての有樂座及び築地小劇場の観客はその意味で最も精撰されたものであつたといふことができる。だが現在では新劇そのものゝ弱年性とその観客の弱年性とは相互的原因として新劇の演技力の低拙を結果せしめてゐることは否定することができない。

歌舞伎の観客は最も廣般な意味での教養を

必要とするものであらう。現在の歌舞伎の代表的な俳優例へば羽左衛門左衛門、幸四郎、延若、福助、仁左衛門、その他は歌舞伎俳優としての訓練において缺くことなき人々であり、その藝術的個性の練磨と獨創性において模範的な存在として許さるべき技術をもつてゐる。

そして観客との交渉についていへば現在それらの俳優達の鑑賞者はいはば俳優と共に同時代人として舞臺的に鑑賞力を成長せしめた人々を観客としてゐる。がしかしかゝる訓練された人々を観客とする限り、それらの俳優は尙若干の完成された支持者を得るであらうが、そうした鑑賞が次第に死骸と共に観客たる事を廢した場合既にその事は顯著な事實となつてゐるが、もはや今後において理想的な観客を見出すことは不可能であらう。現に東西の歌舞伎劇場を充つゝある観客の中心なもの、凡そ歌舞伎劇の鑑賞には極めて疎遠な「連中」若しくは「観劇會」の名によつて招待されたものが、狩集められたところの歌舞伎劇に對して無教養の人々である。元來歌舞伎劇はその舞臺上の約束が複雑であり、演技の様式は型に重きを置くものであると共に、脚本の内容が現代性に乏しく、脚本が分割されて上演される爲前後の経緯が不鮮明であり、且長唄常盤津清元義太夫その他の劇場音楽に對して若干の素養乃至は理解力を持つこ

となくしては充分に鑑賞することが不可能である故に、容易く観客に受け入れられることにはできない。たとへば今日多くの観客が歌舞伎劇を観劇するとも、その中にどれ程の最も訓練された高級の鑑賞力をもつ理想的な観客を數へることができであらうか。歌舞伎劇の眞の鑑賞者は三階の一隅に追ひすくめられ、連中によつて狩り集められたところの、昏澤に着飾つた無教養な観客が座席を占有してゐるのが現在である。それが爲に観客に迎合的な態度をとる歌舞伎劇の俳優の演技は次第に崩されて、理解に容易な寫實的様式を探り、而も寫實にも徹底し得ないで歌舞伎劇の様式の純粹さを徒らに混濁せしめてゐるのである。歌舞伎劇衰退の決定的な要因の一つとして観客の要素が作用してゐることは見逃すことができない。

新派は歌舞伎劇に比して夫程の訓練も教養をも観客に要求しはしない。もともと新派はコンテンツポラリイに訴へかける者として發生したからである。けれ共藝者と實業家と小井人となる主要な構成要素とする新派劇の内容は、明治末期より大正期にかけて人生の中心的な時期を送つた人々を観客とするとき最も、新しいジェネレーションを吸引する力が稀薄であることは拒み得ないであらう。新しい観客を惹き寄せ訓練することのできないところに新派のもつ藝術

的な高限性が存在するといはねばならぬ。現在において最も顯著な貌に舞臺と観客との合流を樂しむつゝあるものは喜劇的傾向をもつ大衆的な演劇で理想的に訓練された教養ある観客によつて支持されてゐるのではなくて、舞臺上の藝術的水準の低さが、観客の智的藝術的教養の低さとマッチすることによつて生じる極めてイージーな融合であるといはねばならない。

繰り返して述べるやうに、演劇の向上發展にとつて観客は決して輕視することの許されない重要な要因である。劇場經營者の最も理想とすべきは、自己の提供する演劇に最も適合した観客を動員し、その観客を藝術的に訓練して行くことだなければならぬ。現在の營利主義の建前からする、できるだけ多くの劇客を吸引せんが爲、徒らに観客に迎合的態度をとり、俳優の演技を観客の安易な趣味に追従せしめることは演劇をやがて衰退に導き、ひいては藝術文化を破壊する結果となることを當事者は反省すべきであり、観客も亦自らの教養の深化と高度化との爲に劇場において怠りなく自己訓練を施すべきことが選ばれたる観客となる途であることを知らねばならぬ。俳優観客劇場經營者共にそのやうな自覺なくしては演劇の好もしき發達を豫期することは不可能であらう。

# 題なし

## 三田村鳶魚

近來老輩の作が尠く爲か、脚本に無法なものが出来た、一時は大分念を入れて書く風になつて、心よい舞臺面が見へた若い人達には無理もないことではあるが、江戸といふ世界に就て何の知識もなく、その上に本を讀みもせず、年寄に物を聞かうともしないのは、忠實でなさ過ぎる、松居松翁、岡本綺堂氏等が塚原澁柿園翁に遇つた昔話さへ知らないのだから關根只誠翁にお世話を受けたことなどは勿論知らない。

作の資料については些少の準備もなく、筆まゝに書き立てるだけのこと、その證據は演劇といふ演劇雜誌が揃つて、作劇資料について知らん顔をしてゐるのでも明白でないか、老輩よりも若手の方が、時代との距離が多いだけに、餘計に骨を折らないといけない譯だ、耳學問がタント入用な勘定だ、見たこともない世界だけに、責めては聞いたこともない世界にはしたくない、まだ八九十の人間は相當に在る、多少とも讀んで耳學問をすれば、餘り見當違ひをせずにも濟む、といふのは作家だけではない、舞臺監督とやら演出とやらの人々も、此邊の心掛けは入用であらう。

他の時代よりも江戸は新しいだけに、澤山に書いたものが

あるのみならず、老類してゐるとはいふものゝ、活きた人間が随分存在してゐる、聞いて置いて置いて損はなからう、若いもの癖に聞きいくの大儀がるとは、ソナナに老人じみなくてもよからうじやないか。

折角何分か立直つた芝居を若手が後退させはさせぬかと心配にもなる、だが若手を怠惰にしたのは、大衆小説と映畫とであらう、脚本だけソナナに骨を折つたところがといふ氣持も出さうなことである、さうして見れば、時勢といふものかも知れない。

如何にも見物は何とも云はずに見てゐる、大衣小説も景氣がいゝ、映畫はいふまでもない、同じ儲けでも疲勞儲けは嬉しくもなからう、ヤツパリ若手は伶俐なやうだ。

去年から伶俐でないのかも知れないが、毎月江戸ばなしを聞く會合を續けてゐる、十五日が例集なので、満月會といふ名がついてゐる、モウ十三四回もやつた、大略三四年は續けると、若手がいふ。その肝煎は若くない眞山青果、木村錦花氏だ、青果氏などにしては馬鹿も利口もない、何事でもいゝ加減にしては置けないといふ性癖からかも知れない。

(カットは歌舞伎座四月の五郎劇)



## 關西劇壇と

### 上演脚本の問題

新橋柳一郎

現在東京方とくらべて萎靡不振を極めてゐる合はせてくれる作家が少ないことは事實だ、食

のは關西劇壇である。俳優に於て、脚本において、満南北、瀬川春郎、山上貞一、大西利夫、鳥江

はるるものゝ東京の作家のものを上演されるの

の現今だけに無理からぬことでもあるが、特に

が多いのは何故か、その原因の探究はこゝでは

この際關西方の一奮闘をのぞんで止まない。

差し控へるが、關西色をもつともよく知つてゐ

その原因にはいろいろあらうが、東京と比べ

るこれらの作家連が中心となつて、もつと關西

るが「こんなものなら出さない方がよくなかつ

關西獨特のカラーを出し、上方氣分を大いに味

俳優を自由に引っぱり出していゝ芝居を見せて

たか」と言ひたいほどのもある、殊に歌舞伎

狂言には、前後の關係を餘程よく知つてゐないと、いくら見ても納得のいかないものがザラにある。

最近「鏡山」の通しだとか「阿漕ケ浦」または「扇屋熊谷」それに「妹春山」の段、「木下蔭狭間合戦」の官兵衛岩など珍らしい狂言がチヨイ／＼出るのは古典劇の再検討としても大へん結構なこと、この點大阪松竹側の企劃に多

大の賛意と謝辭を呈するが、時間の都合でヘンなカットのあるのは止むを得なからうがそれだけに惜しい、望蜀の誠は受けても、久しぶりに出す古典物なら、それだけ得心させてほしいと願ふのは無理であらう？「勸進帳」「野崎村」

「一の谷嫩軍記」などは随分よく出る、決してわるいことではないが、同じものを幾度も見せるよりはやはり時には古い／＼ものを發見上演していただくことを特別願ひしておくと同時にカット止むなしとしても、どうか無理のないやうに……と念のため申添へさせてもらふ。

鷹治郎歿後、鷹によつて好評だつた狂言は扇雀によつて、時折上演されてゐるが、延若、梅玉、魁車によつてもつと復活上演してほしいものだ、延若の「紙治」、「梅忠」も結構、また梅玉、魁車、長三郎らを動かさし、鷹治郎を偲ぶことも一方法ではなからうか。

新作物も眞山、岡本、宇野などの大家、中堅連の健筆になる佳作をよく拜見してゐるが、時々出るレヴュー式の長篇新作歌舞伎めいたものなどはいくら大衆性があつてもどうかと思ふ、いつかの「元祿忠臣蔵」の通しなどこの適例である。

關西歌舞伎には新人と目されてゐる壽三郎あり、小太夫、扇雀あり、また梅玉にせよ、魁車、長三郎でも、新しいものの充分出来る人である、これらの人々と關西方の作家が手をつないだローカルカラーの出たい／＼ものを時折見せてもらつてゐるが今後ともドシ／＼上演してほしいと思ふ。東京方に決して取けてはならない。

歌舞伎ばかりでなく、家庭劇や關西新派にしても同様なことがいへる。家庭劇も四本喜劇に一本新派の五本立と定まつてゐるが、この眞中の新派が最近頓に振はない、時節柄でもあらうが、肩の凝らないユーモアたっぷりなものを演じてゐるが、これも決してわるいやり方ではないが、どうも前後に二本づつ喜劇を見て、また新派で喜劇を見せられては一つバツとせな

い、殊にその新派の喜劇なるものが、四つの喜劇にくらべてい／＼ものでない場合が多い、實につまらない話である、氣の利いた喜劇で、他の四つを喰つてしまへばい／＼が、タジ／＼の受太刀ともなれば、どうかなアと溜息が出る、賣出しの流行作家のものを

見せるのも結構だが、時にはスカツとした新派らしいものが見たい、でなければ小織、石河、東、元安、高田らの新派人も浮ぶ瀬がない、何も東京新派の眞似ばかりせよとは決して云はないけれども、關西色多分な優ばかりだからローカルカラーの出たものを關西の作家によつて書いてもらつて上演してほしいものだ。

## 芝居と映畫の看板

津 村 英 夫

大阪西成區辰見通二丁目

(電天下茶屋三六七八)

# キノドラママ印象記

菱田 正男

京都南座の彌生第三陣に三月廿三日から一週間新築地劇團が來演關西大劇場進出第一回公演のハリ切つたところを見せてゐた、演しものは東都上演の際センセーションを捲き起した、例のキノドラマ「嗤ふ手紙」と「江戸城明渡し」の二つである。

キノドラマとはトーキー映畫と芝居の連鎖劇である——など、簡単に片づけてしまふにはあまりに惜しく、相當研究すべきものである、元來昔の連鎖劇といへば、一つの舞臺に映畫と芝居を次々と替へて見せられてゐたもので、映畫で刀をふり上げて大見得切つたところで映畫幕が上ると同じ役者がそのまゝの恰好で見得を切つて

をつてすぐ映畫のつゞきをはじめ、又それが映畫と代る、これがピリ／＼ツの笛を合圖だから今考へてもユクワイな代物である、その間無聲映畫だからその役者は映畫幕の裏で盛んに臺詞を云はねばならない、こうした不自然な融合の下に大衆に歓迎されてゐた連鎖劇が、昭和の今日、トーキー映畫劇と芝居の完全な結合——之即ちキノドラマ也——といった形に進歩したのでからたしかに時代の進歩の有難さを知るべきである。

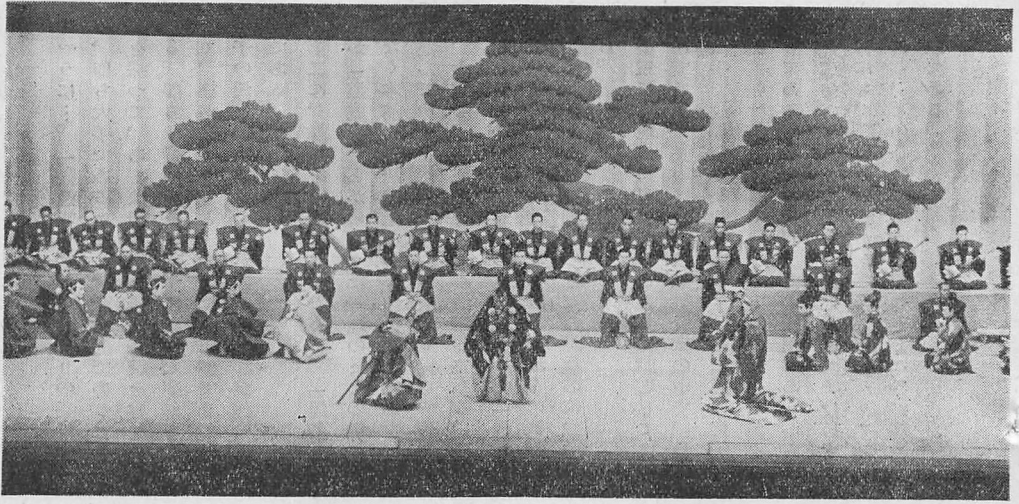
しかもキノドラマはあくまで芝居第一主義で、映畫は従なので、芝居では演り得ないところを映畫で豊富に補つて効果をあげやうといふのだから觀物である、心理状態とが、コントラストの場合など極めて役に立つ、けれども映畫と芝居と五分五分で見せやうとするならばそれは忽ち失敗を招く、えなどのキノドラマにもそうした遺憾な點がある。

問題の焦點の忘れられた手紙に墨がひつくりかへつて手紙の宛名が判らなくなる前後の運びや、野間が乞食娘を替玉に馬鹿娘の名でレコードを賣り出す経緯の不徹底大詰の映畫と芝居五分々々に見せる芝居の失敗、映畫のアップの場合と舞臺の人物への引きうつしの不充分や、そのほか部分的に未完の點もあり、夏芝居だけにすべてに無理があり、も一つ効果があるがぬなど再研究の餘地は相當ある。

然し佻僂娘の自殺の心理状態、レコードの賣行、捨てた男と捨てられた女のコントラスト等いろいろ／＼巧く映畫を使つた點は認める而も思つたより見てゐて疲労も感ぜないし、はじめてとあれまで仕上げた功は推して、將來より一層發展するであらうことに大きな期待をかけておく、俳優では山本の佻僂娘おなみを筆頭に推す、心にくいほどの藝はいつも乍ら魅せられた、薄田の久万吉、千田の野間などわるくなく、日高の鶴子、島田の讚吾、東山の妻喜世、杉村の鳩子、中江の折田などみんな適つてゐる。

(初日所見、十三・三・廿四日稿)





# 勸進帳の あきさと 入江來布

「勸進帳」は何度見ても見飽かぬ芝居である。「忠臣蔵」も「妹背山」も、それから「紙治」や「梅忠」も何度見ても見飽かぬ芝居であるが、「勸進帳」はまた別の意味で何度でも見たくなる芝居である。

筋から言ふと、まことに單純で脚色上の作者の苦心は別段のものはない、義經の哀れさと、辨慶の苦衷、富樫の武士の情けと、それらがまつすぐに描き出されてゐるだけである、全體が能がよりで芝居独自の働きが少い、斯ういふ點からいふと、事件や、心理推移の複雑な他の狂言と比べて一向妙味がない筈であるのに「忠臣蔵」が獨參湯である程度に、「勸進帳」もまた傳家の持藥として、見物を牽制する潜勢力をもつてゐる。この間、壽美藏丈のを見たが、無論また今度の高麗家を見なくなる、幸四郎丈の辨慶は何度見たことか數へきれぬと言つては大層であるが、二度とか三度とかさう簡單な記憶ではない。

これは「勸進帳」のもつ大きさとおもふ、芝居はなれがしてゐて、而も芝居に即してゐるところに飽かぬものがあると思ふ。

第一、能がよりであるところに徳がある、全然能であつては一層莊重かも知れないけれども、その代り窮窟で、動きがとれなくなつて、飽きがくる、若しまた全然芝居であつては、もつと脚色を複雑には出来るけれども、その代りに落ちて狭くなる、たとへば「安宅の松」が「勸進帳」よりも是非なく舞臺が小さくな

るやうに……。『勸進帳』は、能がりの長所だけ、即ち大手であること、象徴的であること、を採つて、あとは相當に芝居の特技を容れてゐる。即ち象徴の美を失はずに、而も夢幻でなく、筋がはつきりと、大衆に味解ができて、男子の涙を示唆するものがある、これが徳の第一である。

第二に、舞踊を適度に入れてゐる、「保名」とか「道成寺」とかのやうな舞踊のための舞踊でなく本筋の芝居に沿ひつゝ象徴的な舞踊を以て進んでゆく、旅の衣に立ち並ぶ立従も、鶯飛び、六方も、花道を最もよく活用してゐる、同じ花道を使つても「暫」のつらねや、「船辨慶」の幕外などは比較にならぬ。これらの舞踊劇かぶれのせぬ舞踊劇のところが徳の第二である。

第三に、地が長唄であることも此劇としては幸ひである。長唄は日本の舞臺音楽の中で、最も派手で最も交響樂的である、日本創製の樂劇「勸進帳」を推進してゆけくとして長唄が必須してゐる、歌詞は大體謡曲の假用であるからよい文句がついて出る、勸進帳の讀上げにも問答にも、登場の役者がみな音樂的のセリフを用ゐる、この全體に樂劇風であるところが徳の第三である。

まづ、こんな風に數へれば、よいことづくめであるが、兎も角、能の鷹揚な味ひに浸りながら、芝居のもつ人情節義に泣き、そして舞踊と、音樂との恍惚に融け合はふといふ、今後國際的に押し出す日本獨創の樂劇としては、先づこれを推奨せねばなるまい。事實「勸進帳」は外人にもよくわかるらしい、先日來阪した智利の大學生たちは六代目の「船辨慶」を見てよくわかると喜んでゐたが「勸進帳」ならばなほ一層外人たちを感激せしむるであらう。

義經主従（妻の河越氏も子供も一緒に）奥州秀衡に身をよせむとて、月の都を立ち出でたのは、文治三年（皇紀一八四七年）、唄の通り、時しも頃は如月の十日の夜であつたが、こゝに奇しきゆかりの考へらるゝのは、

あかずみの都にて見し影よりも

旅こそ月はあはれなりけれ

と誦ひし西行法師が、その前年の文治二年、六十九歳といふに鎌倉に頼朝をたづねた上、はる／＼と奥州秀衡が赴いてゐる、それだけならば偶然の旅の往きかひとしても、さて表て向きの法師の姿は「東大寺勸進僧」で、沙金の淨捨を受けるため、實は兩家に兵馬を談じたたとあるが、文武兼備の法師ながらも、今は老熟の一歌

## 家庭劇を

### 守る人々

阪上勝啓

松竹家庭劇が、何日何處に方いても、興行成績のよい事は、一座が多彩の人々を包有してゐる爲であつて、企劃脚本演出にあつては、何等新しきを感じず、むしろマンネリズラに落ち入つてゐる。だが、今日の家庭劇は之で時代に迎合してゐる。五郎劇が長い生命を約束されてゐる様に、××××××××××の没落は見えてゐるが、家庭劇はしつかりと観客の支持によつて、成長する劇團である事を信じる。

この一座の大幹部十吾の頭の良さと、十郎に匹敵する枯淡な藝風は、常に心良いイズムを持つて、観客をして笑はせ、或ひは泣かせる演技の眞髓を發揮するものであつて、敬服の外はない。彼のお婆さん物は定評のある處、樂屋にあつても彼は、脚本の着想執筆に仲々忙しく、人と話してゐても笑はせるギャグ、笑はせるコッスを絶えず考へてゐる。演出にあつての彼は、峻烈眞剣そのもので、自分の思ふ通りにならぬ場合は、何度だつてやり直す。名人氣質とで

僧、源平の盛衰を出離した感慨は果して兩家に何の兵馬を語るべき、「頼朝義經御仲不和とならせ給ふ」を知らぬ木石のこの人ではなし、殊に秀衡は法師が一門の長者、招かるゝやうに跡を慕ふて落ちてくるものは義經主従である、西行は平家に着いてからも、そのあたりを遍歴して時を費し、それとあらはに歌こそ遣さね、どうやら高館の判官と遭してゐるらしいとの觀察もある。「勸進帳」の素材となつた義經記の作者か、幸若舞曲の「富樫」「笈さがし」の筆者か、それとも謡曲「安宅」の観世小次郎信光（船辨慶もこの人、永正十三年歿——皇紀二一七六

年）か、それら作家の関きに、前年同じ道をしたどつた勸進僧西行法師の傳が、ちらりと映つたと結びたいものである。

（戊寅三月）

朧月文治二年か三年か

來 布

あるときは野にある夢を朧月

同

朧月ゆく人々をふし拜む

同

（三十八頁に續く）

もいふのか、變眉で、人間として愛す可き彼は、交際し難い感じを與へる場合が多い。次に彼の弟分である天外も若いだけに明朗で、舞臺に於いても、役に恵まれ、將來、喜劇界の霸王たる可き、置位を約束されてゐる。趣味として俳句に凝り、一座の有志と共に、俳會を催したりして楽しんでゐる事は奥床しい。僕に呉れた一句、水噴かぬ裸像立てり枯芝には、實に皮肉そのものである。彼の觀察眼の鋭さに、僕は苦笑した。彼の幼い頃を育てた、淡海も、もうすつかり家庭劇の空氣に融合して、このトリオ



洋酒・食料品・罐詰屋

株式會社

横山商店

創業明治五年

大阪市東區豊後町三番地

電話東94代表三八六五番

振替口座大阪二八四七番

# 中村梅玉

俳優の横顔

高谷伸



東京で妹背山の川の方が出る。大判事は幸四郎である。大阪では先月延若が演じ古くは多見藏のを見た。

迎へるの外はない。そこで梅玉が三月に續いて東京に居残ることになつた。

東京で仁左衛門、中車が故人になつてもこの幸四郎がある。しかし定高になると問題である。歌右衛門では花道があるけない梅幸、源之助、秀調と出来さうな人が相次いで故人になつた。松蔦はまだ娘型の人である。多賀之丞では貫録が足らぬ。さうなると大阪から

現在のところ東西を通じて定高の出来る人はこの人の外にない。補缺としては魁車だ

東京には見當らぬ。

永い間鳩治郎の女房役で

た人である。紙屋のおさんでも宵庚申のお千代でも近松物の女房役に傑作はいくらもある。女房役に限らない娘型でも先月のお染はや、とうが立つても本格的な演技を見せてゐた。石切の梢なども永らく立派に手がけてきた。太十では操も初菊もできる。等等等擧げてくると際限がない程である。

東京では立役と女形の分野が比較的はつきりしてゐるが

大阪では兼ねる人が多い。加役の場合を除いても故右衛門のやうな眞女形はすくない。魁車などはつぎり兼ねてゐる。鴈治郎なども青年時代は女形が多かつたし、今の市川市藏の豊作時代や故多見藏の多見の助時代も女形から出發して立役に轉向したので若い頃は豊之丞、多見之丞と女形らしく通稱されてゐたと聞いてゐる。

梅玉も政治郎から福助時代は殆んど女形専門だつた。この頃こそ九段目の本藏や三人旅の黄門のやうな役までやるが、福助時代に立役をやるとかなりびつたり來ない黒田騷動の毛谷主水のやうな役もあつた。しかし先月の船辨慶の義經の如きに容姿端麗で品位

もあり立派なものでつた。

歌右衛門の烈婦型品位は別として、梅玉には特殊の高砂家らしい品位がある。それは育ちからも來れば人柄からも來てゐる價值であらう。従つて立役でも悠揚迫らざるといふ風の人物であまり力線を必要としない役なればわるくないが、本領はやはり女形である。今さら立役といふことは線の織かいだけによほど極限されるものがある。

だからと言つて梅玉の本質にそれが如何影響するものでもない。梅玉は立派に深い自分の領域を今も言ふやうなものをもつてゐるのである。本藏などは一時の加役だといつてもよいのであらう。

延若の線の太い力に對して

梅玉は線は細いし弱々しいが動かせない品位と、底に何といふことなしにねばりを秘めてゐる。剛柔よく對して關西歌舞伎の鴈治郎歿後の支柱となるべきである。魁車、壽三郎等の鼎會に就ては今こゝでは述べない。

素顔の梅玉は沈黙寡言の人と知られてゐた。筆者が初めて逢つたのは大正中頃だつたらう。同じ部屋に席を借りてゐた故新升を訪ねた時だつた新升が舞臺から戻るのを待つ間に高砂家と二人きりになつたことが時々あつた。その頃の福助は全く沈黙寡言の人でこちらの言葉に應答するだけだつたが退屈さうにも見えなかつた。

近年の梅玉は決して饒舌の

## りほんさうど



ス ユ ニ

歌舞伎座、五郎劇（一日初日、五時開演、日曜日マテネ）、「生一本」「獄金」「五色揚」「試験地獄」「花街一夕噺」

☆中座、松竹家庭劇（六日よりお名残り公演、晝夜二回）茶房のフーチャン」「試験地獄」「愛の花形株」「人生双六」「落花狼藉」

☆角座、關西新派劇（八日初日晝夜二回）大倉桃郎原作、中井泰孝脚色演出「琵琶歌」、金子洋文作演出「ふるさと」、川口松太郎作、高屋貞澄演出「人生の日蔭」

☆神戶松竹劇場、大歌舞伎（一日初日、三時半開幕）「鏡山舊錦繪」「お夏狂亂」「常磐津文賀太夫社中」長谷川伸作、瀬川春郎演出「屋根の聲」「隅田川織唄」魁車、錦吾、扇、鷹之助、我久之助、魁幸梅香、小扇、梅童、謹子、延郎、

人ではないが、以前ほど沈黙的ではない。話の要領は寧ろはつきりした人である。言ふべきことは鏗かに順序よく話して行く。藝談などもままたつた話のできる人なのである。

それは、こちらが話に馴れてきたせいではなささうであつた、梅玉の環境と地位の變化が自然さうなつたのではあるまいか。

以前は先代梅玉も存生中だつたし、舞臺の夫鷹治郎も健在だつたので、自然、樂屋でも娘らしく女房らしいつゝ、まじさが溢れてゐたのではなからうか。

今では關西劇壇の主婦としての立場が従來のやうな消極

的態度を保たせなくなつたといふ責任の自覺もあれば拘束を離れた伸びぐつした氣持ちも加はつてゐるのであらう。

さういふ點で人間梅玉は以前よりずつと交成的である。そして舞臺と同じやうな典雅さをもつた以前より親しみのある温かさが増してきてゐる。

ある時、先代以來の巨萬の富をフイにした上に莫大な赤字を背負つたといふ話が傳はつた。しかし梅玉にそんな屈托は見えない。

吉田屋の表に立つた伊左衛門のやうにおほどかな風がある。この人の夕霧は見たが伊左衛門は出てゐないが、存外さうした役もよいかも知れな

い。

上方の、ある時代を代表する。船場の古るい家の代々の、れんを繼いだ若旦那、御寮人さん、そして旦那さんといふ感じのあるといふのが梅玉の横顔を一言にして傳へる言葉かもしれない。

(二六頁の問ひに對して)

### 高峰三枝子

一、戦地よりの軍事便には、總てプロ等を入れてヒマの有る限り一日も早く御送りする様心がけて居ります。  
二、ゴジノとした感じ、しかし學生時代、修學旅行でのなつかしい思ひ出が有りますので、好きです。  
三、たい何んとなく、東海道沿線の辨天鳥へ行き度くて仕方有りません。

市昇、奥山、吉三郎、芝子、延三郎、その他關西の精銳の出演

☆京都都南座、大江美智子(一日初日、晝夜二回)喜勢川の血煙、「挨拶と舞踊」「紅唇街」「お鯉やくざ」

☆娯樂の世界に颯爽デビューした霞町「松竹映畫劇場(松映)」は一日から花々しく開場、新裝三千人收容の場内設備とともに正面入口の左右に設けられた二つの噴水は直徑五間、その周圍にある六千餘のノイズに(噴水孔)から鳥籠の形をして放水され、しかも赤青のネオンの灯が映えて、アメリカ以外では見られなかつた新氣樞は行人の眼を眩らせてゐる。

☆新町演舞場は交樂人形淨瑠璃「堀川」「一ノ谷」「大江山」などが、戻り橋の段では、伊達、つばめの競演に、珍しく人形のセリ上りなどみせ人氣を呼んでゐる。

☆關西新派に村田みね子、藤間房子の二女優が入座したが、此の八日から笈川武夫が復歸し、またあの巧やかな藝で観客をよるこぼせてゐる。

☆松映(松竹映畫劇場)の第二週は國際番組と銘うって松竹大船の「生活の勇者」「ハルビンショウ」さうなら日本公演、ユイナ



病

中

吟

中村吉右衛門

雛段に賜るみかん供へもし

春の灯に賜るみかなでゝ居り

病室をこゝにうつせば猫の戀

ありたけの屏風かこふて春の風邪

虚子先生より御見舞いたゞき

病室の小米さくらや宵の春

トの「からくり花形」を公開したが、第三週もアトラクションを入れ、コロンビアの名歌手、豆千代と伊藤久男を迎へる。

☆大阪劇場の開場近し——著々新装工事なり、近日開場の見込みつく、特に今度はステージに改良の苦心が拂はれてゐる由で、開場記念興行こそ見もの。

☆浪花座は霞町の「松映」の出現にも何のたじろくもなく、松映が七日まで松竹映畫に田中絹代の賞演を配した強力番組で客を呼んでゐる中に、こゝは天下の道頓堀だとばかり、地の利を活用して堂々の成績をあげてゐる。

☆女ばかりの傑作で旺んに當てる新興の春の大作「鴛鴦帳」がロング。次週に亦期待。

☆堂々二ヶ月の續演に、春を歴した松竹座の表裝飾の櫻の色が褪せてくる。OSSK創立十四周年記念興行も、程なく目出度く打上げだ。

☆シヤモちゃん柏ハルエが花かなライトの世界から引退する。我らのシヤモちゃんどこへ行く、懐しい佛がフアンの胸に燃えてゐる。惜しまれるうちが花の花かも知れぬ。ハリキリハルエの將來よ多幸なれ。



# しばる評

## 三月の歌舞伎座

(關中より轉載)

晝夜を通じて歌舞伎十八番が三つもあるが十八番中一幕物として一等獨立性に富んだのが「勸進帳」でままとつてゐるだけ將來上演の機會も多からうが團十郎を知らない我々には老齡でも幸四郎の辨慶こそ典型的なものである。柄調子、踊と三拍子揃つてゐる上に以前程の霸氣はなくとも艶とは思へぬ力の籠つた出来である。羽左衛門の富樫、仁左衛門の義經と暮の顔見世そのまゝの配役は平凡だがそれだけ手堅いとは言へる。

◆.....◆

今度の勸進帳で變つてゐるのは軍擴無條約時代とあつて義經側では四天王を六人に富樫側では三人の番卒を五人に増員してゐることである。極度に節約された能の安宅をさらに節約した點に海老藏の偉さのあつた勸進帳に對して正當な變化ではないが劇場擴大の結果で東京にも先例はあらず。隨員増員の結果祈りが在來の辨慶中心の四方祈りでなく能樂式の半圓形の位置になつたのは當然で先年中座で五人にして風輪附だつた程の醜態ではない。番卒の増員も結局舞臺の廣さの穴埋めに過ぎない。

◆.....◆

「助六」は舞臺の拘欄さと賑かさと江戸歌舞伎らしい氣分の何處となく漂ふてゐる點にあつて叮嚀にやれば二時間以上助六の出までに一時間はあらうといふ大ものである。しかもその冗漫が必しも無駄でなく無駄のうちに歌舞伎情調が溢み出してくるのだが時間制限の今日では何處もかしこも抜け抜け水取り、エ、きりきりとかきやがれと入りも抜けば満江も喰ふ口上があつて金棒引の行き違ひ、晝割をひき上げると揚巻も意休もイタツキでちきり惡態の初音になる。吉原もせわしくなつた。

羽左の助六はこれも定評がある則々たる名調子、動きに往年の意氣はやゝ欠けても正銘の江戸ッ兒助六と凛とした所を探り、友右衛門の意休も堂々として舞臺の均衡を保つてゐる。幸四郎のくわんべらは加役とはいへ立派すぎて勿體なく洒落氣もない。魁車の白酒實は二枚目になりきらず女形になり易いのが難かしい點だが器用なだけにこなしてはゐる。田之助の福山はこの人だけの事はしてゐる

◆.....◆

三升の「押戻」は大坂でも再演である。「暫」と同巧異曲のもので竹拔五郎の荒事で見せるが暗轉を使ふのは反對だ。道具幕をふり落してこれをきつて落すといふ昔からの手順がある。權十郎のリケ田之助、延三郎等の太刀下格の役々々で美しくならぶが以前の演出と變つてゐるのは影武者が塔婆に化するのが雲の切出しに雲隠れする點などが塔婆の方が面白い。遅詩きながら仁左衛門の製名狂言はお定まりの「三千兩黄金藏入」である。これも傾城青陽鶴の一部で釣天井などの條はすっかり除いた一幕物、俳優の貫祿と左切りの技巧だけの芝居、演者は氣のいゝ

役だらうが口上代りの出し物、仁左の三七信孝に羽左、幸四郎等が捕方につきあふだが御馳走である。

◆.....◆

羽左衛門の「布引」の實盛は調子と形のよさを誇るものだが萬事大阪風と違つて派手であるのは發聲法の差にもよる。物語なども儲かるところだが以前ほど形のきつぱりせぬのは流石の萬年若衆も袈髮を髻に染める時代になつたのではないか。友右衛門の瀬尾、義太夫腹があるだけよく、腕を見てのきまり兩人錦繪模様も立派である市藏の九郎助も手馴れてゐるが純大阪風の技巧の人だけに實盛との落つきはよくない。吉之丞の仁惣太も存外氣がなく、仁左の小萬、時藏の葵御前が神妙につきあつてゐる。

◆.....◆

町人の都大阪のために氣を吐く「大阪陣」の安井九兵衛は友右衛門が熱演するが落城を背景としてさらりと連演するだけに悲壯な風景が胸に沁みない。時藏の淀君も手一杯に演じてゐるが妙なものだ。淀君などいふ役は柄がものを言つて動かなくとも歌右衛門でないとその人らしく見えない。田之助の



秀頼はその點無難に近く、染五郎の眞田大助は前髪ぶりが思はしくなく延三郎のおたまは情が薄い。たと舞臺装置のよまきが印象に残る

猶、夜の切に所作事が二つある「京人形」は大坂風だと純景事だが東京風だから非筒姫の身替りに人形の首を斬る筋が獨んでゐる。簡〇を喜ぶ現代ではこの演出も早

晩滅亡が豫想される略そして京人形の振に東京式では大工道具のタテだ。が残されるだらう。幸四郎の甚五郎はさらりと踊るだけで仁左衛門の人形の小車太夫と共に肝腎の振る簡單になつてゐる。

「吉原雀」は染五郎と家橘の鳥の精、踊も踊だが曲のアレンジが無茶苦茶で鼓唄鳥略するのはよいとしても前の三下りのへ同じつとめをその中でアツ切りにして雀踊を出しすぐへげに花ならばへ飛んでしまふ。全く外の客衆は捨小舟で、せめてへ離れ難なき風情なりまで行かねばならぬ。

關西新派の両面

「大地」を生命とずる農民生活は敢て支那に限らない、封建時代の農奴には共通のものがあつた。パ

ールバツクの「大地」は農奴生活の浮沈に人間萬事寒翁の馬といふ支那一流の運命觀を加へて陸級問題的に色づけてゐる點に特長があるが、時節柄支那を背景にすることも大衆の關心を喚び近來での流行作品として迎へられ既に東京でも我當、成太郎を皮切りに猿之助らで上演されてゐる

原作よりずつと東洋的な道德觀を織り込んで角座の關西新派としては脚色も演出もかなり濫いものになつて演劇的には一步向上してゐるのだし脚色演出もかなり締めて殊に前半陰慘な場面をできるだけ走つて後半で見せてゐるのも適當な方法である

梅野井の阿蘭はぐつと締めて素直に演じてゐるのを採り、都築の王龍は後半手持無沙汰の感あるが前半の貧乏時代は流石に格別の味を出してゐる。瀧の蓮英は扮装に凝つた點があり宮村の杜鵑は奴隸氣質を考へてゐる中田の老父はいつもの調子だが農民の道徳を説く點に意義のある役になつてゐるし桃の實から花へと桃の樹を全篇の脈絡に使つた脚色者の細心も推賞する

お見合と御結婚のお寫眞は  
技術・修整・優秀な

今田眞眞館

南地・宗右衛門町  
電南五三七四番

御履物の  
御用命は



百田履物店

堀頓道日本橋南詰東二軒目  
電(75)2061

支店  
天王寺大道南門電停東辻角

### 三問三答

- (一) 國民精神總動員を如何に實行されてゐますか
- (二) 大阪一の繁華街、道頓堀に對する寸感?
- (三) 體位向上の意を汲みて、一寸行つてみたい景勝地

(到着順)

### 佐分利信

一、銃後の一員だといふ事を何事にも忘れない様に心掛けてゐます。

二、例へば東京の銀座と比較して(抽象的ないゝ方ですけど)物質的に感じます。

三、北海道の十勝平野。

### 松本幸四郎

一、微力ながら國防献金、傷病軍人の御見舞など行つてをります。

二、道をはさんで軒から軒へわたされた小旗の連り、その下の繁き往來、東京にては一寸見られぬ風景です。

三、昨年十一月末京都顔見世への途次立寄つた瀨八丁、そのつゝ、埃く頃を見たいと存じてをります。

### 辰巳柳太郎

一、金のない僕達は何時もヨンボリしてます。

二、東京の銀座と變つた、日本の味があります。

三、九州の雲仙。

### 山田五十鈴

一、日々、北支、南支、又は各地に活躍してゐらつしやる勇士の方々から戴く、心強いお便りの整理、慰問等致しております。又私自身、自慢にはなりません、現在、日常の衣類は何處に参ります時でも、許せる限り、銘仙を着ております。一方名譽ある社内の國防婦人會の末席に加はつております私、兎に角、非常時局に相應しい、恥ぢない生活を送る可く日々努力しております。

二、京都のはづれ、洛西嵯峨野と云ふ田舎に生活しておりますので、たまに参りますと、その繁華な事のみを目をうばはれ、只ポーツとして何と云つて宜しいやら、説明に苦しみます。

三、近くでは嵐山、少し奥に入つて、保津峽のハイキングコース、殊にこれから良き事と思ひます。

### 山路ふみ子

一、非常に緊張した氣持で、毎日送つて居ります、無駄なものはないやうに、撮影のない日はなるべく傷病兵を御見舞致して居ります。

二、夜、戎橋から川べりの眺めがとても好きです。

三、關西は私の故郷ですから、平凡ではありますが、舞子や明石に出かけて見たいと思つて居ります。

### 古川登美

一、國民精神總動員の折、私は自分のお仕事は前よりも一生懸命いたします様、心がけて居ります。

二、今年のお正月参りまして、一寸道頓堀を歩いて見まして、東京よりも歌舞伎、映畫と言ふものが、一と處に集まつてゐるので、便利だと感じました。

三、春になりますと、何となく出掛けてみたい氣がします、どこでもよいから、ハイキングをしたいと思ひます。御ハガキは昨日大泉でいただきました。

天婦羅と佛蘭西料理

# 喜久屋食堂

道頓堀式橋北詰(75)番四八番

# リポントウト

んよしくせ



明島夢泡雪

馬

# 談教キゲキ

つもと観大



さて紳士淑女諸君、間違はぬように何もガマの油を賣るんぢやあ御座いません正真正正、キゲキに關する蘊蓄を傾けておしやべりちらすだけで決して後でお金を頂戴しようなんて不心得なことは云ひはせん、閑のある人はホンの三分間聞いて……否讀んで阿呆の寢言とは斯なものかと思れさつて貰つて結構です。讀んで字の如し、キゲキは喜はすお芝居、悲しんでは不可ない何處迄も大口開いてお臍の宿替へは家賃を倒さぬ様に……式のものであらねばならぬらしい。勿論、笑ふばかりが能ぢやあない、皆さん、満堂の諸君ツコゝです、笑ひの裡にホロリ一滴の人情味があつてこそキゲキの喜劇たる所以であるのであります。どうですか、何を云つてゐるのか解りますか、何、解らない？ それで結構、こんなことが解つた日にや、何うかしてゐる、世の中は

何も解らない方がよろしい、一々解つてゐたんぢや恐ろしくしておまんまもロクに頂戴出来ませぬ。

春が来た、何處に來た、探してみたら山に來た、野にも來てゐた、オ、里にもなんて街だけ來てゐない様ですが、皆さん御心配あるな、自然は公平です、街にも地下鐵にも、ビルの窓にも橋の下にもお芝居の舞臺にもチャーンと立派に春は正にゴールインしてゐるのでありますまづ春のお芝居は喜劇からと茲許各座とも喜劇オンパレード。自家の女房の云ふことにや、サノ云ふことにや「支那で我國の爲に働いてゐる兵隊さんのこと思へば勿體のおすけれど、何時觀てもお芝居はよろしおす、それに今月はうちの大好きな喜劇ばかり、一寸この廣告見てみなはれ、アツ變な臭ひ、アツ御飯がこげてらしい、ア、ア、世帯持はつろおま

す。まるで自家だけ春が来てゐないらしい、完全にオミツトされたらしいです。

あゝ世は春だのに……なんて悲感(ひかん)は早い一寸社(いちよつしや)の歸(かへ)りにパイーやるのを一度中止して「どや歌舞伎座連れてつたるか、

不景氣(ふけいき)な面(おもて)してくすぼるな、白粉(おしろい)でもつけて。」と云つて御覽(ごらん)なさい。待つてましたのエビス面(がほ)で「あーら本當(ほんたう)ツ嬉(うれ)しいワぢや白粉(おしろい)買(か)つて來(こ)るワ、そしてその空箱(そまばこ)で今廣告(いまくわこく)してゐる映畫會(えいがかい)が當選(たうせん)したら又

觀(み)に行(い)けるし、一擧(いちぎやう)兩得(りやうとく)……ネさうでしよ」なんてトタンに吾世(わがよ)の春(はる)を諷歌(ふうか)して春(はる)が來(こ)た何處(どこ)に來(こ)たなんて探(さが)さんでも、

長火鉢(ながひばち)の向(むか)ふ側(がは)へ來(こ)てゐます。嘘(うそ)や思(おも)ふたらやつて御覽(ごらん)なさい、あゝ好(い)い功德(くどく)をしたと後(あと)で腔中(くわうちゆう)がスーツとします。

この論法(ろんぽう)よりしてみますれば五郎(ごろう)はんや十吾(じゅうご)はん天外(てんがい)はん、みんな春(はる)の女神(めがみ)みたいなものです、勿論(もちろん)そんなにスツキリ

した美(うつく)しさはありません、少々(せうせう)ぢぢむさいですけれど、そこがそれホロリ一滴(ひとしずく)の人情味(にんじやうみ)で、春(はる)であつて春(はる)でない、長期抗(ちゆうきこう)戦(せん)、國家總動員(こくかそうどうぎん)の春(はる)、鐵無地(てつむぢ)の春(はる)、キゲ



キの春(はる)であるのであります。わかりましたか、何(なに)か、わからない、それでよろしい紳士淑女(しんししよきよ)諸君(しよくん)………

春だ！ 踊だ！  
 踊だ！ 春だ！  
 飯だ！ お酒だ！  
 お酒だ！ 飯だ！



婦唱夫隨で  
 踊は見たし  
 諸事非常時  
 とあつて他  
 所での飲食  
 は不經濟な  
 る立前から  
 早く歸つて  
 御飯にしま  
 せう……

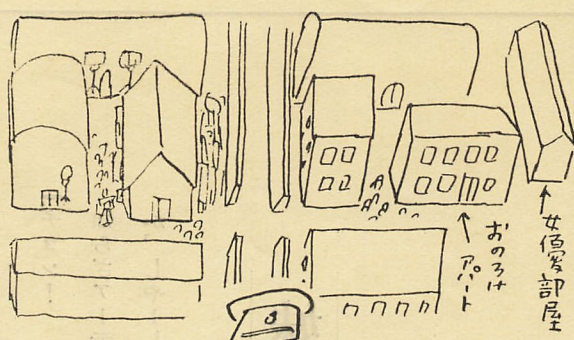
「...デ...君の舞臺經驗は？」  
スター應募

「チョン！」

知らざア云つて、まッ、き  
か、しゃーしょー」

# 妹背平三





スタヂオ「藝芸の幅」漫話記

松竹京都の巻



天龍寺 富田英三

「藝術の幅を廣くする……」  
 つて言葉がいま京都の撮影所街  
 で流行してゐるのだが、一向廣く  
 ならないのが松竹下加茂への路  
 です。路と云ふのは市電出町か  
 ら葵橋を渡つて上る三丁のこと

この三丁の間、タクシーの擦れ  
 違ふなんてことは思ひもよらぬ  
 狭路だが、この廣からぬ路が又  
 下加茂ファンにとつては誠に有  
 難いんですから妙です。と云ふ  
 のはこの三丁の間を一時間も行

きつ戻りつしておればあの彫刻  
 のやうな鼻つばしらを持つKO  
 日ちやんや甘つたるい好太郎は  
 んの頬つべたを間近に拜するの  
 光榮に浴し得られるからです。  
 で、この三丁の間をうらゝな春  
 の陽に浮きくと歩いて訪れた  
 のが松竹京都撮影所、先づ誰よ  
 り……もとおのろけアパートへ  
 浩ちやんと好ちやん（やゝこし  
 ければ高田浩告はんと坂東好太  
 郎はん）の部屋へ見參する。



「おのろけアパート……つて變な名だな……」とお仰有るんですか？こゝはもとの御三家アパート、いまは長谷川一夫と改名

した長二郎はんが抜けてからはお互に細君孝行の浩ちやん好ちやんが「うちのやつは」とか「うちの家内は」とか何とか訪問者を煙に巻くことから發生した仇名で、誠に世は愛妻家の春です。

★ ★

「如何です？藝術の幅は廣くなつたですか？」

「藝術の幅よりもこれからはピールの幅だよ、ね浩ちやん」と、好太郎はん

「ピールの幅が廣くなつたら叱られるぜ」と浩吉はん

「誰に？」

「誰に……つて、奥さんにさ」いやどうもこれでは全然文字通りのおのろけアパートです。

こゝはいま衣笠貞之助氏自身が書卸した黒田誠録の製作にハリキツてゐる。ピールの幅も幅だが、こゝの處で大作をものとして人氣の幅も廣げてもらはねば困る、ましていはんや沈滞を傳へられてゐた日活が巨砲を揃へて「忠臣蔵」を製作してゐるんだから……といらぬオセツカイは云はぬがよろしい、宣傳部氏の後からセットを見る。

先般焼けた第何ステीडかが改装されてゐる「このホリゾンツの深さは恐らく關西一ですよ」とお仰有る、ホリゾンツの上部が内側へカーブしてロングがひけるからであるらしい。



女僕部屋の方から往年の娘役

(當り前の話だが) 柳咲子 女史

が歩いて来る、關西新派で梅野

井秀男丈と芝居に出てゐる川田

芳子、日活忠臣蔵に大石妻りく

をつとめてゐる酒井米子らとと

もに何と時代の鼓の淋しさよ!

大道具小道具が押つまつてゐ

るステーチの間を抜けて、撮影

所にさよならをして表へ出ると

前方からカーキ色の服を着召

した大男が歩いて来る、老役の

NO.1 志賀靖郎さんです。

「おや、スタヂオにカーキ色が

が制服になつたんですか?」と

とほけると

「これやキミ、流行ぢやよ、う

ん、世はフアツシヨでな」

「おや、それやフアツシヨンの

間違ひでせう」

「解らんかねキミは、フアツシ

ヨは、いまのフアツシヨンぢ

や」と、これではまるで漫才

ですが、然しこの人のやうにカ

ーカーキ色の服が似合へば僕も着

たくなる。同人は京都禁酒會の

幹部さんとかで、カーキ服が

同會の制服なんださうです。

「僕も禁酒會へ入會さしてほし

いな」と云へば

「どの位飲むんぢや」

「どの位……つて、お酒は飲め

ないんですよ」

「飲めん、話せんな、初めから

飲まん者はこの會に入る用は

ないぢやろ」

と、カーキ服の肩をいからせ

てサツサと行過ぎる、藝術の幅

はとも角、僕は志賀さんの肩の

幅の廣さに感じ入つてしまつた

ものです。

(二十六頁の問ひに對して)

### 水谷八重子

一、銃後の慰安と演劇文化

向上の爲めに、日常の

舞臺を献身的に努めると

同時に、終始敬神崇祖の

心を忠頭に置いて皇軍の

心運長久を祈り、殉國勇

士の靈を慰める様、力め

て居ます。

二、見る立場からだつたら

五座の櫓の華やかな昔の

氣分が欲しいと思ひます

が、私の立場から云へば

舞臺が歌舞伎座の様な新

様式な設備が望ましく思

はれます。

三、行つて見たい處も随分

ありますが、仕事の都合

で、それも許されません

が、十年來、恒例四月の

寶塚公演間の舞臺の合間

に、寶塚附近を樂しんで

居りますが、何時かしら

忘れられない土地になり

ました。

### 柏ハルエ

一、時間の勵行と斯道に精

進し、経費節約、國威發

展、皇軍長久をお祈りし

てゐます。

二、昔より名代の五座のヤ

ぐらの蔭が無くなる淋し

さ。

三、六甲有馬越へ、信貴生

駒登山、紀泉アルプス。

シリウタオネに核結

…科病柳花…

院医原藤

★ 番 六三六 戎話電 ★ 入西側ノ溝筋橋戎 ★

シリウタオネに核結

淋病にゴナイン

淋病にゴナイン

# 東京夜話

## 守安新二郎

★  
★  
★

### 道頓堀

銀座、新宿、浅草と、こゝを歩るいてゐても僕の臉から消えないのは道頓堀である。が、東京には、道頓堀の持つ情趣豊かな匂ひを思はせる處がない。緊湊一番と云ふ氣持で文筆修業の道立つたもの、僕の臉に焼きこまれた道頓堀の持つ松竹情趣と云ふものは、永

久に離れないだらうと云ふ氣持がする。浅草の六區の中を、彷徨して、様々な映畫の、或ひは芝居の繪看板を見て、僕は、道頓堀の雑沓によく見た、家庭劇の十吾や、天外や、それから關西新派の梅野井などを瞬間に連想して、道頓堀の春を、想像する程、僕は、東京へ来てより、銀座や、新宿、浅草よりも、遙るか百五十里西の道頓堀へ想ひを乗せてゐることである。

### 東京の酒

この間、銀座で、恰度暮色が下りる頃新興キネマの河津清三郎に逢つた。「よう、何時來たんだ!!」と云ふ聲を向ふからかけられて、僕は、初めて、酔つぱらつてゐる河津の存在を知つた。ともかく、新橋の大友や、安兵衛、南蠻茶房と轉々と飲む程に、酔ふ程に歩いたが、源多徳三郎ウジよ、江戸の酒は

でえ一、舌當りが頼りなくて、甘くねえ!と云ふものを感じ、到る處で、酒の不美さの不平をこぼすと、「この野郎、飲んで、酒の不平ばかり云つてやがる!」

と、河津は怒鳴つたが、實際、江戸で飲む酒は、頼りない酒ばかりである。さう云ふ風に考へると、僕は今更のやうに關西で飲んだ酒の味に一抹の懐しみを抱いて、遙るかおん身邊の周圍の良き酒に、一つの羨望を感じるものである。

菊正宗も、白鶴も、月桂冠も、江戸にはあるのだが、それは關西で飲む味がなく、江戸用として作られるから、すべて江戸好みの如く甘口である。僕には甘い酒が苦手である。

### 女優と歩いた茶房

銀座の養生堂のなかで、僕は、午後三時の陽差しを受けながら、お茶を喫んでゐると、入つて來たのは、松竹大船の高

杉早苗と、も一人は高峰三枝子である。

考へてみると、古い友達で、僕がまだ映畫雜誌の編輯を東京でやつてゐた當時からの顔見知りである。

その頃から、僕は高杉早苗と云ひ高峰三枝子が好きであつた。——どちらを戀人に取るか。

當時蒲田で所長祕書をやつてゐた守安正が僕にさう云つた。

「僕にはどちらとも決め難い、この二人は、僕の好みを持つてゐるよ。」

と云つて笑つてからもう何年になる。

彼女達と圓卓を圍んで資生堂でお茶を喫んだ。高杉早苗は、今國光映畫の「國民の誓ひ」を撮影してゐるので、全然忙がしいと云ふ。銀座へ出るのには幾週振りかだと聞いた。その時、高峰三枝子が、「ぢや、今晚、銀座裏の喫茶店でも與たりませうか。」と來た。

僕が高峰との初對面は、まだ彼女が十二三の頃であるだけに、この子供が生意

氣云つてらアとやると、

「あら、あたしもう子供ぢやなくつてよクサルなア、何時までも、子供の時の印象で待遇を受けちや……」

と云つた。

三人で武裝して、銀座裏の喫茶店を順次に巡禮したが、そこに見る茶房風景と云ふものは、大阪とは全然スタイルを異にしてゐる。

大阪の茶房に見る落着きや、なんとなく孕らんでゐる、圓滿さうな、平和さうな感じは、東京の茶房には何處へ行つても見られない。

派手な彩色のなかに、異國的な情趣を充滿させて、毛頭江戸的なものはそこに見られない。すべては、國際的な彩色は東京は塗りかへられて、その國際模様と云ふものが、近頃の東京情趣に變つて來たやうである。

## 酒の飲めない夏川

### 讀者 讀 敏夫さんと 南の芝居

敏夫さんが映畫を去つてから久しく讀んでゐた映畫雜誌をよして、淋しい自分に今度また新らしく此の本が目につきました。二月の、敏夫さんの日記、

記念會の折、挨拶の中に食滿氏が此の誌の事を口にされたのを思ひ出し讀んで見る氣になつたのです。無才の私には、お芝居のむつかしい事など解りませんが（あの敏夫さんが出はる。）と言ふだけで良いものであり以前から好きでもあつた丈けにすつかり映畫マニア轉じて歌舞伎好みになつてしまひました。たいてい大阪で上演される事が多いので京都是つまりまへん何かにつけ不便で、今迄の様に手輕くお使ひなど出たついでに少しの時間でちよつとでも見られたのが大阪まで行かねばならないだけに稽古の合間の少しの時間のプランも立ちさうにありま

丸の内松竹を飛び出して、日比谷へ行くかと思つて、東朝の横から電車道へ出ると偶然、大船の夏川大二郎に逢つた。

第一映畫が解散の直後、京都で一々逢つた切りの彼と僕である。

「どうだ。久し振りに一夕やらうかビールで。」と云つたら、

「どうも、ビールを飲むと、肥つて來るんで、心配してゐるんですよ。」

夏川大二郎は、餘程肥つた肚を搦すりながら、帯革をゆるめて見せたが、

「酒は？」

「どうも東京の酒は苦手だネ。」

結局、それで、僕はビールを飲む。彼はシトロンをチビリとやりながら酔つぱらひのお相手をしやうと云ふのであるが「ネ、シトロンでオデンを突くのも乙なもんですよ。」と、異なことを云ひ出した。僕はサイダーでオデンは生れて初めてのことである。

然し、夏川大二郎は、むしろ、下手な

呑ん平よりも、飲みツ振りが巧い。サイダーで、感じが出るかと聞くと、

「ビールや、酒で、體が肥つて來るのを心配しながら飲むより、この方が心置きなく、安心して飲めますネ」と云つた。

映畫俳優と云ふ立前上、より醜ひ近く肥ると云ふことを恐れてなら、酒の呑めない夏川大二郎はいさゝか可哀さうみないなもんであると思つた。(つづく)

× ×

東京夜話としてこちらの松竹、映畫、芝居に亘つて、それぞれの花形達との僕の交友を、日記から引張り出して、こゝに毎號の道頓堀へ通信して送稿する。

追々の裡には、何が飛び出して來るやも計り難い。面白かつたらお慰めだが、でなかつたら、源多徳三郎ウジまで、やめちまへと申出て欲しい。

せん。敏夫さんは無邪氣な人でした。今でもさうでしよ。お玄關でチウ飛して遊んでると同じ様に飛びはつたあの人が思ひ出されます。

奥の間で友達など並んで賑やかにいつも遊ばしてもらひました。何處かへ行つた歸りはきつと加茂のお家へ違まわりしたものでした。お稽古の歸りだと云つては寄り、三條へ稽古本を買ひに行つては河原町を真すぐ飛んで行つてしまつたり随分お邪魔した事など懐かしく思ひ出されます。

三月は南座へ。嬉しかつた。今迄のやうに逢へなくとも京に居てくれはると言ふだけで楽しい喜びであります。

大石主税は、映畫に於てポイントの土屋主税が忍ばれました。お父さんの椀久は、やつぱり素晴らしい。今更ら言ふまでもありませんが終つた後のポカンとした迷想は新らたに今の舞臺が瞳の裏に浮かび今もなほ印象深く引かれるものがありました。

(三 蝶京娘寄)



# 芝居十景

日比煤藁

芝居前灯に灯纏るゝ春の雨  
舞臺端幕へ膨るゝ春の風  
柀は冴えて舞臺いつはい春搖るゝ  
春芝居世話だんまりへ上る月  
春芝居遠見の富士は淺黄空  
春芝居幕の大浪揺れて開く  
春匂ふはかり舞臺の鬢鬢  
出語りの淨瑠璃に春流れ出づ  
春の宵二重舞臺の長き影  
春芝居果てなき戀に閉づる幕

(十九頁より續く)  
によつて面白い芝居が見られる。彼の酒臑、彼の諧謔味は天下一品である。今や彼は昔日の人氣を見事に恢復した。

又、家庭劇の強味は、三番目に裾れる新派である。齡七十に達して、尙且壯者を凌ぐ、新派の宿老小織桂一郎。前回にも書いたが、熱心に勉強する高田亘、元安豊、森英二郎。加えて、女優陣の豪華絢爛さ、先づホープ石河薫や、萬年娘東愛子などの美しくさと功みな演技は、一座の至寶であり、浪花千栄子の藝熱心と、思ひ切つた演技は、好感が感てる。斯界の老練橋郁代の藝達者と、妖艶小松孝子、さては近頃メキメキ美しくなつて惠やれて来た月丘松子、石島康代、松榮澄子、千種花子などの潑刺たる躍進ぶり。菊五郎指導俳優學校の俊英、島田好乃の新鮮味も、大いに、家庭劇の堅陣を誇る上に於いての魅力であらう。

余田通天や、喜鶴、天照なども、もつと重要されてよい人々で、希くば第一の狂言を之等中堅軍と、女優の新人を以て、活躍させて欲しいものであ



# 川柳 役者と酒

森 ほ の ほ

松	梅	梅	猿	幸	菊	吉
葛	野	幸	之	四	五	右
意	井	幸	助	郎	郎	衛
外	丹	醉	葡	盃	徳	門
にも	前	興	萄	を	利	陶
上	と	の	酒	い	に	然
戸	替	小	に	で	猪	と
と	へ	鼓	眠	參	口	な
知	て	牙	氣	らせ	に	つ
れて	酒	え	催	ん	好	て
女	豪	て	し	高	み	小
形	の	立	猿	麗	も	唄
	女	女	之	屋	六	の
	形	形	助		代	吉
					目	右
						衛
						門

る。観客層に若い人々を吸引するために、女優陣に歌と踊りの指導者をもち、ヴァラエティ風的一幕、スケッチ風の短笛二三を、レコード音楽を以て演出するも面白からう。

家庭劇を守る人々に就いて、最意に特筆したいのは、新派の演出者山上貞一クンである。

彼が、大阪に於ける精進も古いもんだ。彼が演出者としての出發は、野外劇「裏切」で、僕の友人、石橋昌花や、澤田春夫などが出演した。遠い昔の思ひ出だ。其後、僕たちの新劇運動は失敗中絶したが、二人の演出家を劇壇におくつた。一人は新國劇の樋口君で、一人は山上君で、彼は良く脚本を書いて勉強し、地盤を築いて行つた。家庭劇らしい風格を備えた、第三の新派の人氣のあるのは、彼の練磨されたみな演出の力と、脚本撰定の巧さに巧起因する。幕内にあつては監督とし、世話役となり、家庭劇向上のために日夜腐心邁進してゐる。

	編
源	輯
多	雜
生	記

☆……物を創り出す仕事程愉快なものはない。小さい仕事ではあるが、此の『道頓堀』にしても、方々から大變な御後援をいただきます。毎月出すには色々な苦勞もあつて、決して樂な者ではないが、良いにしろ悪いにしろ、出来上つたものを自分の手にとつた時の氣持は、又新しく創り出し度い氣力を培つてくれる編輯を終へたあとの快さは社長が又事業を一つ増したるの感だらうか。

☆……だが今月ばかりはチョツと多忙すぎた。霞町に出来た『松竹映画劇場』の初代宣傳部へ、永年歌舞伎座の住田君の下で名女房役をつとめて来た天野君が抜擢されて行くことになり、ボクも浪花座と兼務で、お手傳ひをすることになつて、机をばさんだが、天野君の大ハリキリに、共々三晩ばかりの徹夜をしたり

して、全く『道頓堀』に萬全を盡しかねた。しかし、豫定の日には出る☆……小誌も誌代値下げの第二號をおくり出すに及んで、やうやく内容も變りつゝある。いよゝゝスピードを出して來號あたりから急轉換をするつもりだ。

☆……既に來月號の原稿が机上に山積してゐる。

衣笠貞之助氏の『キノドラマの藝術性』長稿二十四枚  
志賀廻家淡海丈の『舞臺から拾つ

た話」

川上利一郎氏の『芝居と映畫と道頓堀』

木谷利夫氏の『時局と芝居』  
新興キネマのスター座談會

等々、この調子だと來月號は豪華なものになるだらう。それに、映畫レヴューを多分に盛り込みたいとおもつてゐる。御期待下さるやう願ひします。

☆……後援御執筆に與つてゐる諸先生に謹んで御厚禮申上げます。

繁華街に近く、交通至便  
閑雅な和洋室！

◇モタン階上浴室新設◇

南地ホニル

宿 三圓 額半  
二圓 半額  
一圓 半額  
南地 戎橋 電停前  
電話南四一四・四四一

昭和十三年四月十五日發行  
月刊『道頓堀』第十三年  
雜誌『道頓堀』第百卅九輯

◇誌代は前金お拂を願ひます。  
◇郵券代用は一割増にて御註文願ひます。  
◇御相談の上廣告掲載の需に應じます。

廣告取扱所

大阪電報通信社  
大阪市、區中之島二丁目

廣告の御用は電通または當編輯部廣告係へ御申越下さい。

部 一 金拾錢 (郵錢五厘) (稅)

昭和十三年四月十五日印刷  
昭和十三年四月十五日發行

大阪市南區久左衛門町八番地  
松竹興行株式會社大阪支店  
發行者 鳥江 鏡也  
編輯者 松本 泰三  
印刷所 道頓堀印刷所

大阪市南區久左衛門町八番地  
松竹株式會社大阪支店  
發行所 道頓堀編輯部



はさんだが 天野君のナ  
に、共々三晩ばかりの徹夜をしたリ



# 美松の名物みつ豆

これが・ほんその・うまいもの

美松みつ豆は大阪名物  
であります

御子達御年寄にOK  
御婦人にOK・勿論  
紳士向で近代人向です  
心ブラの味、花の味  
春の太陽の味、アベツ  
クの味、必らず舌鼓を  
御打ちに成ります

豆つみツールフ  
豆つみんあ  
豆つみきづあ

近代味覺街  
家庭味覺の殿堂

心齋橋美松



大松竹の全機能を總動員して製作する空前の豪壯篇、日本精神鼓吹の盡忠秘史！  
松竹京都超特作品、松竹傘下の映畫演劇花形スター總動員巨匠衣笠貞之助演出

# 黑田誠忠錄



坂東好太郎  
高田浩吉  
飯塚敏子  
北見禮子  
伏見信子

坂東橘之助  
志賀靖郎  
山路義人  
坪井哲  
關六  
風間宗操  
日下部龍馬  
山口勝久  
本郷秀雄  
高松錦之助  
高松正夫  
南光  
葉山純之輔  
中村吉  
尾上松太郎  
石原須磨男

小川時次  
天野双一  
野村哲男  
井上晴夫  
保瀬英二郎  
大川六郎  
遠山滿  
中村政太郎  
廣田昇  
奈良澤一誠  
宇野健之助  
玉島愛造  
嵐菊  
伊波榮之介  
結城一郎  
中村正太郎

梅若禮三郎  
柳さく江子  
伏見直江子  
花岡菊子  
糺美代子  
柴田篤子  
瀧見すが子  
成田光枝  
中村時三郎  
光川京子  
久松三津枝  
白富土枝  
鏡富子  
大和淳子  
中川久乃  
最外三郎  
宮村松江

大船より  
岩田祐吉  
葛城文子  
劇壇より  
坂東壽三郎  
尾上菊藏  
千田是也  
新田地作  
恩田清次郎  
岡田壽  
宮村松江

新築地より  
薄田研二  
本田克二  
永田靖  
新興より  
光岡龍三郎  
松本三郎  
荒木忍  
原聖四郎  
葛木香一  
水野浩

昭和十三年四月八日印刷  
昭和十三年四月十五日發行  
第三種郵便物認可  
（毎月一回）

〔道頓堀〕 第十三年 第百三十九號